

## 「6つの力」を育成する研究授業 単元計画・学習指導案

地理歴史科単元計画（地理探究）			
対象（場所）	2年78組（2年8組）		令和7年7月8日 （火）6限目
単元名	第2章 産業と資源 2節 農林水産業		
単元の目標 （単元で育成 する資質・能力）	ア 次のような知識を身に付けること。 （ア）資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象を基に、それ傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組と。 イ 次のような思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けること。 （イ）資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きを踏まえて、主題を踏まえて、主観的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の存在を多面的・多角的に考察し、表現すること。		
教材	教科書（東京書籍）、ICT端末、新編 高等地図（帝国書院）、complete 資料集		
具体的な評価基準（課題発見力）			
6つの力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度
S 未来を構 想する	農業の特徴や分布、現代の状況を理解した上で、これからの農業の課題を見つける。	現在の農業の課題を転用して、現在見られない新たな課題を見つけることができる。	自分ごととして未来の課題を見つけようとしている
A 利他的に概 念を使う	農業の特徴や分布、現代の状況を理解した上で、現在の課題を見つける。	現在の農業の課題を転用して、現在の別の地域の課題を見つけることができる。	自分ごととして、地球的課題を見つけようとしている。
B 利己的に概 念を使う	農業の特徴や分布、現代の状況を理解した上で、自分の身の周りの課題を見つける。	現在の農業の課題を転用して、自分に関する課題を見つけることができる。	自分ごととして身の周りの課題を見つけようとしている
C 知るのみ	農業の特徴や分布、現代の状況を理解した上で、課題を見つけられない	現在の農業の課題を転用して、現在見られない新たな課題を見つけることができない	自分ごととして課題を見つけようとしない
本質的な問い		持続可能な農業と食の安全保障は両立するのか。	

学習指導要領から抜粋

C～Sに合わせて、評価基準を4段階にする。

6つの力の中から選ぶ

単元終了後に、解けるようになってほしい問いを設定する。

単 元 計 画					
時	学習内容	評価内容と方法	知識・技能	思考判断表現	主体的態度
1	農業形態の変化 チューネンの農業立地モデル 生産性と集約度	各農業の生産性と集約度を協働的に見出し、図示する。	○		
2	前回の学習内容を転用して、農業分布の自然条件と社会条件を見出す。	農業分布の条件を協働的に見出し、表にまとめる。	○	●	
3	これまでの概念を活用して、これからの農業の課題を見出す。	アグリビジネスの長所と短所を協働的に理解し、より多く課題を見出す。 【◇問いに対する回答】		●	●

○ 見取り・・・見えるもの 生徒の変化など  
 ● 評価・・・見るべきもの＝形成的評価 抽出・直感で可  
 ◇ 評定・・・説明責任にも活用 記録に残す評価 根拠

ここが分かりにくいかと思います。私も勉強中ですが、随時話し合いながら理解を深められたらと思っています。ですので、ご都合のいい時間などにご相談いただければ幸いです。

3時間で1単元が終わる計画にしてみました。評価内容の部分を、各教科に合わせて、「○○の問題が解ける」「○○が読める」「○○が記述できる」などになり得るかと思います。

授業指導案					
本時の目標 (3/3)	アグリビジネスについて、これまでの概念を活用して、長所と短所を理解し、今後考えられる課題をより多く見出す。				
本時の流れ			評価方法 ○見取り ●評価		
過程	学習活動	指導上の留意点	知識・ 技能	思考判 断表現	主体的 態度
(1) 導入 3分	(1) ケチャップからアグリビジネスのフードシステムを理解する。	自分の身の周りにアグリビジネスがあることに気づかせる。			●
展開 (2) 10分	(2) アグリビジネスの取り組みを理解する。 開発輸入、商品作物、野菜貿易、畜産革命	(2) 図や資料から読み取らせる。			
(3) 10分	(3) アグリビジネスの長所と短所を見出し、板書する。	(3) チューネンの農業立地モデル、集約度、生産性、分布の条件を全て活用(転用)できるよう促す。		●	
(4) 10分	(4) 長所・短所を理解する。	(4) 自分が気づかなかった意見を見出させる。		●	
(5) まとめ 15分	(5) 持続可能な農業と食の安全保障が両立できるか構想し、Google Formsで回答する。	(5) 初めのケチャップから地球的課題として捉えられるようにする。		●	◇

○見取り・・・見えるもの 生徒の変化など

●評価・・・見るべきもの＝形成的評価 抽出・直感で可

◇評定・・・説明責任にも活用 根拠